

微小害虫の発生状況調査

鹿本支部では、果菜類や花き類にウイルス病を媒介し、大きな被害をもたらすコナジラミ類やアザミウマ類の防除対策に役立てるため、毎年4月から11月にかけて1週間毎の野外密度を管内7ヵ所でモニタリングしています。

最新の発生状況は、毎週の技術部会員の会合などで関係指導職員全員に共有され、栽培終了後の適正な残渣片付けによる「病害虫を出さない対策」や栽培前の「ほ場に病害虫を入れない対策」の指導に役立てられています。この調査は、その年の発生予察のみならず、地域ぐるみの防除対策に対する意欲を促すことにもつながっています。

今春は、地域の主力品目であるスイカやメロンでのウイルス病の発生は少なく、最も被害が大きいウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）を媒介するコナジラミ類の発生も平年より少ない状況で推移しています。引き続き、夏～秋の栽培に向けた防除対策の一助として効果が期待されています。



色彩トラップによる調査



ハウス閉め込みの指導